

2021年4月9日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR部**中部圏において水素の大規模利用の可能性を検討する「中部圏水素利用協議会」に参画**

千代田化工建設株式会社(本社:横浜市、社長:山東理二、以下「当社」)は、中部圏における水素の需要拡大と安定的な利用のためのサプライチェーン構築を目指し、水素の大規模利用の可能性を検討する「中部圏水素利用協議会」(以下、協議会)に参画致しました。本協議会は、石油・ガス・電力などのエネルギーをはじめ、石油化学、自動車、金融など様々な業界の企業から成り、産業界全体で「2030年に年間30万トンの水素を利用する大規模な水素供給システムの確立」という目標を掲げて、国内初の取り組みを横断的に行います。

当社は本協議会への参加を通じて、2020年代半ばから2030年頃にかけての水素サプライチェーン構築を目指し、「2050年カーボンニュートラル」の基盤となる水素社会の実現に向けて、地球環境の未来と持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

【協議会 参画企業】 ※2020年7月時点。50音順。*は事務局。

出光興産株式会社、岩谷産業株式会社、ENEOS株式会社、*住友商事株式会社、
中部電力株式会社、東邦ガス株式会社、*トヨタ自動車株式会社、日本製鉄株式会社
日本エア・リキード合同会社、*株式会社三井住友銀行、三菱ケミカル株式会社

【協議会の目的、主な活動内容】

水素社会の実現に向け、需要サイドにおける大規模な水素利用の具体的な方策を検討し、供給サイドと連携を図りながら社会実装に向けた取り組みを進めます。

- ▽海外からの水素大規模輸送が始まることを想定した、中部圏での水素受入拠点から需要サイドまでのサプライチェーンの検討
- ▽発電・石油産業等の各製造業の企業活動やモビリティでの利用など、中部圏全体での水素利用量のポテンシャルの試算
- ▽各々の需要サイドで受け入れ可能な水素コストの検討
- ▽実現に向けた技術面・金融面・制度面での課題を整理し、必要な施策と社会実装につながる事業モデルを提案

以 上

この件に関するお問い合わせ先 : IR・広報・CSR部 塚本 / 池尻

電話: 045-225-7734 FAX: 045-225-7748

URL: <https://www.chiyodacorp.com/jp/contact/index.php>